

古地図で散策 大洲ご城下

(肱南地区)

市街を散策しながら、200年前の町並みを思い描き、当時の人々の生活を垣間見る。

そんな町歩きの手助けになればと願ってこの案内図を作りました。

古地図は、寛政11年(1799)作成、第11代將軍徳川家斉の時代のもので、(大洲は第10代藩主 加藤 泰濟)

お城を中心とした当時の町割や道筋がほぼ残っており、所によっては内堀、外堀の跡も明確に残っています。櫓や石垣、案内表示等を手がかりに江戸時代の町を想像の中で再現する、という方法もこの地図の楽しみ方と考えます。古地図と現代図を見比べながらご利用ください。

大洲市立博物館
大洲市中村618-1

【参考】古地図(裏面)の見方

- 1 武家屋敷は氏名を表記し、その向きは玄関の位置を示す。
- 2 東側の紫地は、町人町を示す。

(★)印は、史跡の表示または説明板の位置を示す。(○)数字で表示した史跡を除く)

見どころ案内

【内堀を見つける手がかり】

- ① 二の丸大手門跡 〈式ー〇〉
- ② 二の丸搦手門跡(北の菱門) 〈壱ー〇〉
- ③ 内堀菖蒲園 〈壱ー〇〉
- ④ 内堀跡 標柱 〈式ー〇〉

【外堀を見つける手がかり】

- ⑤ 三の丸北西隅櫓跡 〈壱ーイ〉
- ⑥ 南隅櫓 〈式ー〇〉
- ⑦ 大洲高等学校第2運動場 〈参ー〇〉
- ⑧ 苧綿櫓 〈式ーハ〉

【家老屋敷の広さを実感しよう】

- ⑨ (大手門)東門の護り 〈式ーハ〉
家老「大橋兵部」邸跡1,745坪余
(Aコープ三の丸店を含む1角)
- ⑩ 西の門の護り 〈参ー〇〉
家老「加藤伊織」邸跡1,976坪
(大洲高等学校から簡易裁判所一带)



【武家屋敷を探訪しよう】

- ⑪ 「中江藤樹(1608～1648)」屋敷跡 〈参ーイ〉
(至徳堂:昭和14年(1939)に百石取りの武士の屋敷を模して造られた。)
(内村鑑三の「代表的日本人」で紹介された。近江聖人。藤樹心学の創設)
- ⑫ 藩校「止善書院明倫堂」跡 〈式ーハ〉
(孔子の木像と並んで中江藤樹画像と王陽明画像が掲げられていた)

【町人町を探訪しよう】

- ⑬ 三瀬諸淵(1840～1877)生家跡 〈式ーハ〉
安政5年(1858)日本初の電信機の実験に成功した。
大阪病院一等医
妻は高子(シーボルトの孫・イネの娘)
- ⑭ 豪商 対馬屋 跡地 〈式ーニ〉
いろは丸(海援隊が使用)購入に多額の出費をしたと伝わる。
- ⑮ 政尾藤吉(1870～1921)生家跡 〈式ーニ〉
米国連邦政府弁護士免許獲得、外交官としてシャム(タイ)の法典編さん顧問を務める、功によりシャム王国の皇族待遇を受けた。

【時代をつなぐ寺社を訪ねよう1】

- ⑯ 龍護山曹溪院(臨済宗) 〈参ーハ〉
(藩主 加藤家菩提寺 歴代藩主の画像を所有)
(文禄3年(1594)大洲初代藩主貞泰公(1580～1623)が現在の岐阜市に開基したものを移転した。)
- ⑰ 磐陀山法華寺(曹洞宗) 〈参ーニ〉
(臨済宗中興の祖 白隠の「布袋吹於福図」所有博物館保管)
(元徳2年(1330)宇都宮豊房の守護着任に伴って下野国から移転した。)

【時代をつなぐ寺社を訪ねよう2】

- ⑱ 大洲神社 〈参ーホ〉
大正3年(1914)この地に合祀された。
(寛政11年は、A徳正寺とB西方寺があった。)
〈四ーイ〉

【時代をつなぐ寺社を訪ねよう3】

- ⑲ 富士山如法寺(臨済宗) 〈参ーへ〉
(2代藩主泰興公が1669年盤埴を開山として開基 仏殿は国の重要文化財)

本地図から少し離れてます